

第14回「母から子への手紙」コンテスト

大賞 武藤恵美子さん(愛知県)

母さんはお前に謝ることにした。
 中学三年生夏休み最後の日。お前は汚い靴下の中に小さな茶色の子ネコを入れて帰ってきた。母さんは動物なんて飼ったこととはなかったし、特にネコは目つきが怖くて子どもの時からあまり好きじゃなかった。だから、よくあるパターン通り徹底的に、うちでは飼えないと大声で怒鳴りつけたよな。お前が何も言い返さず背中を丸めて、両手でそっと包むように茶色の小さな命を抱いていたのを覚えている。
 その後、近くの空き小屋に毛布やエサを用意して子ネコを育てていたらいいな。お前の妹から聞いた。お前が守り抜いたフワフワの柔らかな生き物はとうとう家族の一員になった。
 遠くで寮生活を送るお前と会うことはほとんどないけど、お前が置いて行った猫とは毎日一緒だ。時々、(あの時はごめん)と言ってみる。そして、お前にもな。ごめん。

第14回「母から子への手紙コンテスト」の表彰式は昨年12月6日、学びいなどで行われ、大賞を受賞した武藤恵美子さん(愛知県)らに表彰状や記念品などが贈られました。
 このコンテストは、本町出身の医学者、野口英世博士の母シカが、渡米中の野口博士に宛てて書いた手紙にちなみ、母と子の絆を感じてもらおうと、平成14年から実施されており、毎年国内ばかりでなく、海外からもわが子への愛情をつづった多くの手紙が寄せられています。
 今回は、国内外から前回を上

回る1481編の作品が寄せられ、一次選考会では、町内のお母さん75人が50作品を選出。
 最終選考会では、芥川賞作家で福聚寺住職の玄侑宗久さん、エッセイストの大石邦子さん、春日居郷土館・小川正子記念館名誉館長の末利光さん、一次選考委員代表(猪苗代町お母さん委員長)の小林光子さんの4人が厳正に審査し、大賞、準大賞、日本郵便賞などの各賞を決定しました。
 今月号では、大賞を受賞した武藤さんと町内の入賞者2人の作品を紹介します。

佳作 棚木敏世さん(川桁)

息子へ
 大輔が生まれた瞬間、産婦人科の先生、爆笑したっけな。あまりの小ささに。
 まわりの赤ちゃんが、ふにゃふにゃしている時も大輔はすでに、首がすわっているかのようでした。生まれた時のように、常に大きくあつて欲しいと思ひ、名前に「大」を入れました。
 今でもどこからその自身は沸いてくるのか、一言一言が自信たっぷり、本当に頼もしい男の子に成長しました。お母さんは、結構この前向きな姿勢大好きです。でも、知ってるよ。めちゃくちゃ緊張して笑顔が引きつっていることも。心配かけまいとして、テンション高いことも。
 いいんだよ。弱い部分もたまには、見せてもいいんだよ。家族なんだから。
 大輔ファンクラブ第一号
 お母さんより

佳作 佐藤京子さん(入江)

平成二十七年三月一日、今まで弱音を吐かなかったのに、余命をさとったのか、福島市の病院に行く前「もう、この家には帰ってこれない」と言ったあの言葉。母ちゃんは、あんどとき何も声をかけることができなかつたなあ。
 今思うと、いろんなことが思い出されるなあ。本当におれの子かと思うくらい、何をすることも几帳面だったよな。だからおれのこと反対に、「本当におれの親なの?」とよく言われてたもんだつた。返す言葉がなかった。
 でも、三月十二日、母ちゃんが代わってやりたかつたな。おめえは、仕事にもはげみ家族も愛し、病とも懸命に闘ってきたよな、それにしても六十五歳は、早かつたな、告別式では、孫たちがじいじに話しかけるようにお別れの言葉をいっていただ。まだまだ孫たちの成長を見守ってゆきたかつたべなあ。これからも、天国から変わらない優しい眼差しを注いで見ていてな。
 本当に今までお疲れ様だった。ありがとな。



Pick Up

今月のイベント

町内の青年3団体が「いなラボ」設立

猪苗代青年会議所、町商工会青年部、JAあいづ青年連盟猪苗代地区(農青連)の青年3団体は12月7日、町の振興を図ることを目的に新団体「猪苗代研究所(いなラボ)」を設立しました。
 町の将来を担う青年が団体の垣根を越え、それぞれの得意分野を生かしながら、町の活性化のために力を合わせようと任意団体として組織しました。
 同日、町内で開いた会合でそれぞれの団体が持ち寄った名称の案を発表し、団体名を決定しました。名付け親の土屋睦彦さん(農青連)は「観光や歴史、経済、産業などを研究し、猪苗代の発展のために活動する」という理念を盛り込んだ。さまざまなことに挑戦できるように、限定的でなく、シンプルな名称にした」と発表しました。
 発起人の一人、町商工会青年部の西村和貴部長は「3団体の強みを生かしながら、町の振興のために役立ちたい」と抱負を述べました。
 新団体としての活動は、来年夏に猪苗代湖の天神浜で開催予定の音楽や食などを発信するカルチャーミックスイベント「オハラ☆ブレイク」で地元食の魅力アピールする事業などを計画しています。

広報猪苗代

Jan.2016
 1
 No.663



【撮影日】12月15日
 【場所】シルバー人材センター

今月の表紙

年末のシルバー人材センターの恒例行事、しめ縄作りにいそしむ小椋美作さん(右=古城町)と佐藤芳平さん(左=木地小屋)。「新しい年が良い年になるように」と願いを込めながら、笑顔で縄をないました。

Contents — 【目次】

- 02 年頭のごあいさつ
- 04 Pick up
- 05 第14回「母から子への手紙」コンテスト
- 06 まちのわだい
- 08 笑顔でこんにちは/いなわしろみらい会議 かわら版/スクールピックス/西館地区で歴史を振り返る写真展
- 10 いなわしろタウンページ
- 14 暮らしの情報広場
- 16 みんなの美術館/食生活改善推進員コーナー